

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	24-099	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol consumption has a J-shaped association with bacterial infection and death due to infection, a population-based cohort study アルコール摂取は細菌感染および感染による死亡と J 字型の関連を示す：集団ベースコホート研究		
執筆者		
Stattin K, Eriksson M, Frithiof R, Kawati R, Crockett D, Hultström M, Lipcsey M.		
掲載誌		
Sci Rep. 2025 Mar 1;15(1):7333. doi: 10.1038/s41598-025-90197-8.		
キーワード	PMID	
飲酒、細菌感染、集中治療、死亡率、敗血症	40025055	
要 旨		
<p>背景：本研究の目的は、アルコール摂取と細菌感染リスクとの関連、およびその用量反応関係を検討することである。</p> <p>方法：Swedish Mammography Cohort および Cohort of Swedish Men の参加者のうち、1997 年に生活習慣に関するアンケートに回答し、その後追跡した者を本研究の対象とした。飲酒による感染症の発症、集中治療室（ICU）入室、および感染症による死亡リスクを Cox 回帰を用いて評価した。</p> <p>結果：23 年間追跡した 58,078 人のコホート参加者のうち、23,035 人が感染症と診断され、4,030 人が感染症で死亡した。アルコール摂取は、感染症の発症および感染症による死亡リスクと J 字型の関連を示した。すなわち、アルコール 5-10g/日の飲酒群と比較して、0.5g/日未満および 30g/日以上の飲酒群において、感染症の発症、ICU 入室および感染症による死亡リスクが高かった。</p> <p>結論：非常に少ない量の飲酒者と非常に多い量の飲酒者において、感染症発症、ICU 入室および感染による死亡リスクが高かった。飲酒量を減らすことが細菌感染による死亡率を低下させる可能性が示唆される。</p>		